

古墳群守った 先人をしのぶ

奈良・広陵町で展示会



来館者に説明する今井県議
(左)＝25日、奈良県広陵町

「馬見（うまみ）古墳群を守った人々」と題する展示会が24、25の両日、奈良県の広陵町立図書館でありました。日本共産党の今井光子県議が、同町の郷土史家・故坂野平一郎さん（広陵古文化会会長）の遺品や資料を引き受けて開催したものです。25日には河上邦彦・広陵文化財保存センター所長が坂野さんをしのんで講演。両日で120人が参加しました。

広陵古文化会は1963年に発足し、真美ヶ丘ニュータウン（広陵町、香芝市）開発の際には馬見古墳群を守る運動をすすめ、緑地公園として保存させるなど同町の古墳や文化財を守ってきました。坂野さんは「行政を動かす最大の力は、住民の力の結集であり、文化財は地元の人々が立ち上がってこそ保存することができる」（2009年）という言葉を残しました。

参加者からは、「広陵町の貴重な資料を研究し残してくれた坂野さんの情熱に接し改めて感謝を申し上げたい」（60代男性）などの感想が寄せられました。今井県議は「夏休みの宿題の参考になったという中学生もいました。わが町にはたくさんの古墳があり、守ってくれた人々がいたことで素晴らしい環境が残っていることを知ってもらえてよかったです」と語りました。